

近世の日本

令和4年10月19日(水) 9:40~10:30

1 単元について

- 本単元は中学校学習指導要領歴史的分野「B 近世までの日本とアジア」の内容に基づき、中学校学習指導要領解説には次のように記されている。

この中項目では、16世紀から19世紀前半までの歴史を扱い、我が国の近世の特色を、世界の動きとの関連を踏まえて課題を追究したり解決したりする活動を通して学習することをねらいとしている。

この時期の我が国は、織田・豊臣の統一事業及び江戸幕府による諸政策を通して生まれた安定した社会が、その後長く続いた。外国との関わりでは、ヨーロッパ文化の伝来や東南アジア各地への日本人の渡航など対外関係が活発な時期から、外国との交渉が限定された時期へと移っていった。その中で産業や交通が著しく発達し、町人文化や各地方の生活文化が形成されるとともに、社会の変動の中で幕府の政治が行き詰まっていった。

この中項目は、アに示した次の(ア)から(エ)までの事項によって構成した。

以下は、この中項目全体の構造を説明するために、アの「知識及び技能」に関する(ア)から(エ)までの事項(事項名のみ記載)と、イの「思考力、判断力、表現力等」に関する項目との関係を示したものである。

(3) 近世の日本

課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識を身に付けること。

- (ア) 世界の動きと統一事業
- (イ) 江戸幕府の成立と対外関係
- (ウ) 産業の発達と町人文化
- (エ) 幕府の政治の発展

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

- (ア) 交易の広がりとその影響、統一政権の諸政策の目的、産業の発達と文化の担い手の変化、社会の変化と幕府の政策の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、アの(ア)から(エ)までについて近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現すること。
- (イ) 近世の日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現すること。

(1) 単元観

本単元は、大航海時代や近代化を果たした後のヨーロッパ諸国の世界進出と関連付けて、中世や近代の社会の仕組みと比較しながら、近世の日本社会の変化について、多面的・多角的に考察し、表現するのに適した単元である。また、安定した社会で経済が発展することや、富と文化の関係などを考察し、それらの概念を習得するのに適した単元である。

(2) 生徒観

本学級の生徒に事前に行ったアンケート(令和4年8月25日実施)の結果は次の通りである。

質問項目	肯定的解答
近世の日本と世界の歴史に興味がある。	90%
近世の日本の社会の特徴がどのようなものか説明することができる。	14%
織田・豊臣政権の行った政策と、その政策が社会に与えた影響について知っている。	57%
江戸幕府の全国支配や対外政策について知っている。	48%
江戸時代の日本の文化の特徴や、そのような文化が生まれた背景について知っている。	57%
幕府の政治の諸改革の目的や結果について知っている。	38%
クラスや班のメンバーと一緒に学習すると1人で学習するよりも学習内容がよくわかる。	86%
クロームブックなどのICTを使った授業では、課題に取り組んでみようという意欲がわく。	81%

アンケートの結果から、9割の生徒が近世の歴史に興味をもっているが、各小単元の既習事項について

は約半数の生徒は定着していないことから、近世の日本の社会の特徴に対する理解が不十分だとわかる。また、生徒は、協働的な学習や ICT を活用した学習が理解や考えを深めると実感して

(3) 指導観

本単元では、小学校での既習事項を足場とし、「どのように戦のない社会になっていったのだろう。それによって社会の様子はどのように変化し、どのように幕府の滅亡につながったのだろう」という中項目全体を貫く課題を設定し、「体験的な学習」とすることで、学習に対する興味をもたせたい。また、中世の社会と比較しながら、この中項目全体を貫く課題を考えさせることによって、近世の社会の特徴を掴ませたい。

また、多くの生徒が ICT を活用した授業に意欲的に参加できると考えているため、スプレッドシートを活用した学習の場面を設定することで、生徒の主体性を引き出すとともに、配慮を要する生徒への支援としたい。さらに、協働的な学習の場면을意図的に仕組むとともに、複数の資料の情報を必要に応じて関連付けさせ、多面的・多角的に考察させ、表現させることで、深い学びを実現し、思考力・判断力・表現力を身に付けさせたい。

(4) 単元の目標

- 近世の日本の大きな流れを、世界の歴史を背景に、時代の特徴を踏まえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を読み取り、まとめる技能を身に付けるようにする。 【ア. 知識及び技能】
- 近世の日本に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、思考したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 【イ. 思考力、判断力、表現力等】
- 近世の日本に関わる諸事象について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。 【ウ. 学びに向かう力、人間性等】

(5) 本単元において育成しようとする資質・能力とのかかわり

本校は、次の資質・能力の育成に重点を置いている。

- ①言語・数量・情報 ②問題解決力 ③情報活用力 ④コミュニケーション能力 ⑤主体性・協調性

本単元では育成しようとする資質・能力とのかかわりについて、次の2点に重点を置くものとする。

② 問題解決力

本単元では、小学校の既習事項を生かして、「どのように戦のない社会になっていったのだろう。それによって社会の様子はどのように変化し、どのように幕府の滅亡につながったのだろう」という中項目全体を貫く課題を設定する。この課題の答えを生徒に予想させたり、仮説を立てさせたりしながら、この課題を解決するためには何をどのように学ばよいか考えさせ、学習の見通しを持たせることで問題解決力の育成を図る。また、中項目を構成する小単元の学習が終わるごとに、中項目全体を貫く課題と小単元の学習内容との関連について振り返らせることで、問題解決力を育成したい。

⑤ 主体性・協調性

課題の解決に向けて、クロームブックを活用してグループで意見交流をさせる場面を設定することで、生徒の主体性・協調性を伸ばしたい。また資料を根拠にして、自分の意見を説明させることで、さらに理解を深めさせ、他者の意見から自分にはない新たな視点や考えを習得させることで主体性・協調性をもって学習に取り組むことの意義にも気付かせたい。

(6) 本質的な問い

日本はどのようにして平和で、自由で、平等な民主主義社会へと歩を進めてきたのだろうか。

(7) 単元を貫く問い

○中項目「近世の日本」

- どのように戦のない社会になっていったのだろうか。それによって社会の様子はどのように変化し、どのように幕府の滅亡につながったのだろうか。
- 小単元1「世界の動きと統一事業」
織田信長・豊臣秀吉が全国統一をすることができたのはなぜだろう。また、彼らの政策は、その後の社会にどのような影響を与えたのだろうか。
- 小単元2「江戸幕府の成立と対外関係」
なぜ江戸幕府は、長い間政治の権力を保つことができたのだろうか。
- 小単元3「産業の発達と町人文化」
なぜ都市で、町人が担い手となって文化が発展したのだろうか。
- 小単元4「幕府の政治の展開」
なぜ幕府の政治は行き詰まりを見せたのだろうか。

(8) 個別の問い

○小単元1「世界の動きと統一事業」

- なぜヨーロッパの人々は日本にやってきたのだろうか。
- 織田信長と豊臣秀吉はどのようにして全国を統一したのだろうか。
- 秀吉は、どのような社会をつくったのだろうか。
- 安土桃山時代の文化はどのような特色をもっていたのだろうか。

○小単元2「江戸幕府の成立と対外関係」

- 江戸幕府は、どのように全国を支配したのだろうか。
- 江戸幕府は、どのように人々を支配したのだろうか。
- なぜ江戸幕府は鎖国体制をとったのだろうか。
- 江戸幕府は、琉球王国、アイヌの人々とどのように交易していたのだろうか。

○小単元3「産業の発達と町人文化」

- 江戸時代にはどのような産業が発展したのだろうか、そしてそれらの産業が発展したのはなぜだろう。
- 江戸時代の交通網の発達によってどのような影響があったのだろうか。
- なぜ元禄文化は大阪の町人たちの間で花開いたのだろうか。
- なぜ化政文化は江戸の町人たちの間で花開いたのだろうか。

○小単元4「幕府の政治の展開」

- なぜ幕府の政治は改革が必要となったのだろうか。
- 社会の変動や欧米諸国の接近は幕府の政策にどのような影響を与えたのだろうか。

2 単元の評価規準

観点	ア. 知識・技能	イ. 思考・判断・表現	ウ. 主体的に学習に取り組む態度
評価規準	<p>・ヨーロッパ人来航の背景とその影響、織田・豊臣政権による統一事業とその当時の対外関係、大名や豪商などの生活文化の展開などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を読み取り、近世社会の基礎がつけられたことを理解している。</p> <p>・江戸幕府の成立と大名統制、身分制と農村の様子、鎖国などの幕府の対外政策と対外関係などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を読み取り、幕府と藩による支配が確立したことを理解している。</p> <p>・産業や交通の発達、教育の普及と文化の広がりなどを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を読み取り、町人文化が都市を中心に形成されたことや、各地方の生活文化が生まれたことを理解している。</p> <p>・社会の変動や欧米諸国の接近、幕府の政治改革、新しい学問・思想の動きなどを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を読み取り、幕府の政治が次第に行き詰まりをみせたことを理解している。</p>	<p>・交易の広がりとその影響、統一政権の諸政策の目的、産業の発達と文化の担い手の変化、社会の変化と幕府の政策の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>・近世の日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。</p>	<p>・近世の日本について、見通しをもって学習に取り組もうとし、学習を振り返りながら課題を追究しようとしている。</p> <p>・学習を振り返るとともに、次の学習へのつながりを見いだそうとしている。</p>

3 指導計画 (25 時間)

時	学習活動	指導上の留意点 (○) 予想される生徒の反応 (・)	評価規準等 【観点】 評定に用いる評価 (□) 学習改善につなげる評価 (■)
中項目の導入 1	<p>1. 本時の学習の見通しをもつ。</p>	<p>○本時から「近世の日本」の学習を行うことを確認させ、近世と中世の社会にはどのような違いがあるか質問する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国が統一されている。 ・戦が少なくなった。 ・都市に活気があり、町人が新しい文化をつくった。 <p>○「戦が少なくなり、安定した社会になったのに、なぜ江戸幕府は滅亡し、近世は終わったのか」と発問する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒船でペリーがやってきたから。 ・幕府を倒す勢力（薩摩や長州）があらわれたから。 <p>○生徒がもつ安定した近世の社会のイメージと、倒幕勢力があらわれたこととのギャップを指摘し、近世の社会に何か大きな変化が起こっていたのではないかと問いかけ、課題を提示する。</p>	
	<p>2. 既習事項や教科書の内容を踏まえて、「中項目全体を貫く課題」について考察し、ワークシートに記入する。</p> <p>【資質・能力】 ② 問題解決力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・徳川家康が江戸幕府を開いた。 ・鎖国政策によって外国との関わりが制限されるようになった。 ・黒船の来航がきっかけとなって、江戸幕府が滅亡した。 	<p>【ウ】 ■既習事項を基に、中項目全体を貫く課題に対する学習の見通しを立て、学習を通して明らかにしようとしている。</p>

【中項目全体を貫く課題】どのように戦のない社会になっていったのだろうか。それによって社会の様子はどのように変化し、どのように幕府の滅亡につながったのだろうか。

めあて：この単元の学習内容の見通しをもとう。

<p>1. 既習事項を確認する。</p>	<p>○中項目全体を貫く問いを確認させ、前時の学習内容を踏まえて、単元を貫く問いを提示する。</p>	
<p>【単元を貫く課題】 織田信長・豊臣秀吉が全国統一をすることができたのはなぜだろう。また、彼らの政策は、その後の社会にどのような影響を与えたのだろうか。</p>		
<p>2. 本時の学習の見通しをもつ。</p>	<p>○ヨーロッパからもたらされた鉄砲が戦い方を変え、全国統一につながったことを確認させ、「なぜヨーロッパの人々は日本にやってきたのか」と発問する。</p>	
<p>めあて：なぜヨーロッパの人々は日本にやってきたのか説明しよう。</p>		
<p>3. 中世のヨーロッパとイスラム世界について学習する。</p>	<p>○プトレマイオスの地図と T0 図を提示し、「どちらが古い地図でなぜそう考えたのか」と発問する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プトレマイオスの地図の方が正確で、北が上で表されている。また、世界は球体であることを表現しているから T0 図の方が古い地図だと考える。 ○プトレマイオスの地図は紀元前 2 世紀に、T0 図は中世ヨーロッパでキリスト教の世界観を表現して作られた地図であることを押さえさせる。 ○古代ギリシャ世界の学問が発達していたことを紹介し、それらがキリスト教によって否定され、ヨーロッパから失われてしまったことを確認させ、「T0 図を信じる人達に世界を航海することが可能だろう」と発問する。 ・難しいと思う。 ○どのようにしてヨーロッパ諸国が世界を航海することが可能になったのか学習することの必要性に気付かせる。 	
<p>4. ルネサンスと宗教改革について学習する。</p>	<p>○当時イスラム世界は世界最高水準の学問や文化を持っていたことや、アジア・ヨーロッパ世界をつなぐ交易をさかんに行っていたことを確認させる。</p> <p>○イスラム世界からもたらされた古代ギリシャ文化の影響を受け、ルネサンスが花開いたことや宗教改革によってプロテスタントが誕生したことを確認させる。</p>	
<p>5. 大航海時代について学習する。</p>	<p>○大航海時代に新たな航路が開かれ、交易が広がったことを確認させる。</p>	
<p>6. まとめ</p>	<p>ヨーロッパの人々が世界に進出し、日本にやってきた理由は 3 つある。1 つ目は、イスラム商人によってもたらされていたアジアの香辛料などの産物を直接手に入れることである。2 つ目は、宗教改革によって勢力が弱まったカトリック教会の勢力を拡大するためである。3 つ目は、イスラム世界からもたらされた学問を用いて、地球球体説の仮説を実証するためである。</p>	
<p>【イ】 □ヨーロッパ人来航の背景を資料から情報を読み取り考察し、表現している。</p>		

小 単 元 1 2 次	1	1. 既習事項を確認する。	○ヨーロッパの人々が世界へ進出した理由を確認させ、本時のめあてを提示する。	
		2. 本時の学習の見通しをもつ。		
		めあて：織田信長と豊臣秀吉はどのようにして全国を統一したのか理解しよう。		
		3. 鉄砲とキリスト教の伝来と広まりについて学習する。	○鉄砲が伝来し、国産化が進んだことや、キリスト教が伝来し、民衆にも広まったこと、南蛮貿易が行われたことについて確認させる。	
		4. 織田・豊臣による統一事業について学習する。	○織田信長は、ヨーロッパからもたらされた鉄砲やキリスト教をうまく利用して全国統一を進めたことを確認させる。また、そのあとを継いだ豊臣秀吉が全国統一を成し遂げたことを確認させる。	
		5. まとめ		
		織田信長は、大量の鉄砲を用いた集団戦法を採用したり、敵対する仏教勢力をおさえるためにキリスト教を保護したりすることで全国統一を進めた。また、そのあとを継いだ豊臣秀吉が全国統一を成し遂げた。		
				【ア】 ■織田・豊臣政権による統一事業とその当時の対外関係について理解している。

<p>1. 既習事項を確認する。</p> <p>2. 本時の学習の見通しをもつ。</p>	<p>○秀吉以前（中世）の社会は、権力が分散し、私有地が拡大した時代であったことを確認させる。</p> <p>○「全国を統一した秀吉はどのような社会をつくったのか」と質問する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 武士が権力を持つ社会。 ・ 土地を武士が支配する社会。
--	---

めあて：秀吉は、どのような社会をつくったのか理解しよう。

<p>3. 秀吉の政策について学習する。</p> <p>4. まとめ</p>	<p>○「秀吉はどのような政策を行ったのだろう」と質問する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 太閤検地 ・ 刀狩 <p>○「どちらの政策が先に行われたと思うか、またその理由は何か」と発問する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 農民が抵抗できないように刀狩が先に行われたと思う。 ・ まずは土地を治めることが大切だから、太閤検地が先に行われたと思う。 <p>○正解は検地であることを確認する。検地は荘園領主や土地の中間管理者の権利を否定し、百姓に土地の耕作権を保障するものであったことと、この政策により、新しい土地支配の仕組みが作られたことを確認させる。</p> <p>○刀狩によって、兵農分離が進んだことで、武士を頂点とする新たな身分制社会（近世の基礎）が確立したことを確認させる。</p> <p>○朝鮮侵略の失敗が豊臣氏の没落を招いたことを確認させる。</p>
--	--

秀吉は、検地によって荘園領主や土地の中間管理者の権利を否定し、新たな土地支配の仕組みを作った。また、刀狩によって、兵農分離が進み、武士を頂点とする新たな身分制から成る社会を確立し、近世の基礎を築いた。

【イ】 ■近世の日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。

小 単 元 1 4 次	2	1. 既習事項を確認する。 2. 本時の学習の見通しをもつ。	○織田・豊臣の全国統一によって社会が大きく変容するとともに、安定した社会となったことを確認させる。 ○「近世の基礎が築かれた社会では、どのような文化が生まれると思うか」と発問する。 ・南蛮人たちがもたらした文化。 ・分からない。 ○これまで学習した時代の文化の特徴や担い手について振り返らせる。 ・古代には公家たちが文化の担い手だった。 ・中世には武士たちも文化を担った。 ・仏教の影響を受けたものが多い。 ○当時の社会の様子と文化はつながっていることを確認させ、めあてを提示する。	
		めあて：安土桃山時代の文化はどのような特色をもっていたのか理解しよう。		
		3. 桃山文化について学習する。	○大名や豪商が担い手となって雄大で豪華な桃山文化が発展したことを確認させる。また、「なぜ大名や豪商が担い手となったのか」と発問し、文化と富や権力の関係に気付かせる。 ○庶民が芸能を楽しむようになったことを確認させる。	【ア】 ■ 大名や豪商などの生活文化の展開について理解している。
		4. 南蛮文化について学習する。	○キリスト教の宣教師によってヨーロッパから文化や学問がもたらされたことを確認させる。	
		5. まとめ	安土桃山時代には、社会が安定したことによって経済力をつけた大名や豪商が担い手となって、雄大で豪華な桃山文化が発展した。また、ヨーロッパからの文化から影響を受けて、南蛮文化も生まれた。	
		6. 単元のまとめ	○中項目全体を貫く問いとの関係に関連付け、まとめさせる。	【ア】 <input type="checkbox"/> ヨーロッパ人の来航の背景とその影響、織田・豊臣政権による統一事業とその当時の対外関係、大名や豪商などの生活文化の展開などを基に近世社会の基礎が作られたことを理解している。
		【単元のまとめ】 科学技術を発展させたヨーロッパ諸国がアジアへ進出し、世界の交易が広がった。その結果、日本に鉄砲やキリスト教がもたらされ、広まった。織田信長はそれらを利用して全国を統一へと歩みを進めた。彼の後を継いだ豊臣秀吉は、検地や刀狩を行い、日本の社会は兵農分離し、新たな身分制から成る社会となって、安定した。		

小 単 元 2 1 次	2	1. 既習事項を確認する。	○中項目全体を貫く問いを確認させる。教科書の年表から、他の時代と比べて江戸時代が長く続いた時代であることを確認させ、単元を貫く問いを提示する。	
		【単元を貫く課題】なぜ江戸幕府は、長い間政治の権力を保つことができたのだろう。		
		2. 本時の学習の見通しをもつ。	○予想を立てさせる。 ・大名をうまく配置したから。 ・参勤交代を実施したから。 ○生徒の意見から、幕府の支配体制と関係があることを確認させ、本時のめあてを提示する。	
		めあて：江戸幕府は、どのように全国を支配したのか理解しよう。		
		3. 江戸幕府の全国支配について学習する。	○江戸時代の土地支配の割合を示したグラフを提示し、「幕府の領地に関してどのようなことがわかるか」と質問する。 ・幕府が多くの土地を支配していたこと。 ○幕府は広大な土地や重要な都市・港を支配するなど、他の大名に対して圧倒的な財力を持っていたことを確認させる。 ○大名配置図を提示し、「大名の配置の仕方についてどのようなことがわかるか」と質問する。 ・外様大名は江戸から遠い場所へ、親藩・譜代大名は江戸周辺や重要な地域に配置されている。 ○幕藩体制を作り上げ、武家諸法度などにより、厳しく大名統制を行ったことで、安定した社会を実現したことを確認させる。	【ア】■諸資料から歴史に関する様々な情報を読み取り、幕府と藩による支配が確立したことを理解している。
		4. まとめ	江戸幕府は、全国の主要な都市や港などを含む広大な幕領と大名の治める藩という幕藩体制によって全国を支配した。また、武家諸法度により、厳しく大名を統制した。	

<p>1. 既習事項を確認する。</p> <p>2. 本時の学習の見通しをもつ。</p>	<p>○幕府が幕藩体制を確立し、厳しい大名統制を行ったことを確認させる。</p> <p>○「大名を統制すれば、幕府は長い間権力を保つことが可能だろうか」と発問する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・可能だと思う。理由は当時は武士が最も権力を持った時代だから。 ・それだけでは不可能で、その理由は公家も統制する必要があるから。 ・それだけでは不可能で、その理由は南蛮人を押さえる必要があるから。 <p>○江戸時代の人口の割合のグラフを提示して幕府は何をする必要があるか考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口が多い農民を統制する必要がある。
--	--

めあて：江戸幕府は、どのように人々を支配したのか理解しよう。

<p>3. 江戸時代の身分制度について学習する。</p> <p>4. まとめ</p>	<p>○秀吉の時代にできあがった身分制度がさらに強まっていったことを確認させる。</p> <p>○武士の特権や百姓を支配するための五人組などの制度について確認させる。</p> <p>○百姓が最も人口が多い身分であり、年貢を納めることで、江戸時代の社会を支えていたことを確認する。</p>
--	---

【ア】■江戸時代の身分制と農村の様子について理解している。

江戸幕府は、秀吉の時代からの身分制度を強化し、それを利用して、少数の武士が多数の百姓を支配する体制を作り、人々を支配した。

<p>小単元2 3次</p>	<p>1</p>	<p>1. 既習事項を確認する。 2. 本時の学習の見通しをもつ。 3. 朱印船貿易について学習する。 4. 鎖国政策について学習する。 5. まとめ</p>	<p>○秀吉が積極的に貿易を行っていたことを確認させる。 ○家康も積極的に貿易を行ったが、後に鎖国政策となることを確認させる。</p> <p>めあて：なぜ江戸幕府は鎖国政策をとったのか説明しよう。</p> <p>○朱印状という許可証を持った船のみが貿易を行うことができる朱印船貿易によって交易を行い、東南アジアに日本町ができるなどしたことを確認させる。 ○江戸幕府はキリスト教に対する危機感から禁教・貿易統制・外交独占を行ったことを、キリスト教信者数の推移のグラフや島原・天草一揆の資料を読み取らせ、考察させる。</p> <p>幕府はキリスト教信者の急増や信者による一揆などに対して危機感をもったから鎖国政策をとった。また、鎖国政策によって、海外との貿易を統制・独占したり、海外の情報を独占したりすることができた。</p>	<p>【イ】□鎖国などの幕府の対外政策と対外関係について、資料を基に、多面的・多角的に考察し、表現している。</p>
<p>小単元2 4次</p>	<p>2</p>	<p>1. 本時の学習の見通しをもつ。 2. 薩摩藩による琉球支配について学習する。 3. アイヌ民族との交易について学習する。 4. まとめ 5. 単元のまとめ</p>	<p>○大名配置図から現在の沖縄や北海道に大名が配置されていないことに気付かせる。 ○当時はまだ沖縄や北海道が日本の一部ではなかったことを確認させる。</p> <p>めあて：江戸幕府は、琉球王国、アイヌの人々とどのように交易していたのか理解しよう。</p> <p>○薩摩藩が琉球支配から大きな利益を得ていたことや琉球使節が派遣されていたことを確認させる。 ○松前藩がアイヌ民族と交易を行ったことやその交易がアイヌ民族にとって不利なものであったことなどを確認させる。</p> <p>薩摩藩は、実質的に琉球王国を支配し、中継貿易を管理下において大きな利益を得ていた。また、琉球使節を送らせ、将軍の権威を人々に示していた。松前藩は、アイヌ民族と有利な条件で交易を行い、経済的に支配していた。</p> <p>○中項目全体を貫く問いとの関係を関連付け、まとめさせる。</p> <p>【単元のまとめ】江戸幕府によって、武士を頂点とする身分制を基にした、幕府と藩による全国を支配する仕組みが確立した。幕府は広大な直轄地と治めたり、貿易を統制したりすることで、力を保持した。また、これらの政策により都市や農村における生活が変化し、長く安定した社会がつくられた。</p>	<p>【ア】■江戸時代の対外政策について理解している。</p> <p>【ア】□江戸幕府の成立と大名統制、身分制と農村の様子、鎖国などの幕府の対外政策と対外関係を基に、幕府と藩による支配が確立したことを理解している。</p>

<p>1. 既習事項を確認する。</p>	<p>○中項目の導入の時間を振り返らせ、近世には、町人が新しい文化をつくったということを確認させる。古代や中世には、町人は文化の担い手となっていなかったことを確認させ、「江戸時代にはなぜ町人が文化の担い手となったのか」と発問する。</p>	
<p>【単元を貫く課題】なぜ都市で、町人が担い手となって文化が発展したのだろうか。</p>		
<p>2. 本時の学習の見通しを持つ。</p>	<p>○予想を立てさせる。 ・都市が栄えたのではないか。 ・町人が経済力を持ったのではないか。 ○「なぜ江戸時代に都市が栄え、町人は経済力を持ったのだろうか」と発問する。 ・産業が発展したから。</p>	
<p>めあて：江戸時代にはどのような産業が発展したのか、そしてそれらの産業が発展したのはなぜか説明しよう。</p>		
<p>3. 江戸時代の産業の発展について学習する。</p>	<p>○「かつて瀬戸内の地域でさかんであった産業は何だろうか」と質問する。 ・製塩業 ・綿織物工業 ・造船業 ○塩は江戸時代の瀬戸内の特産品であることを紹介し、江戸時代には、各地で新たな産業が発展したことを確認させる。 ○「江戸時代に各地で新しい産業が発展したのはなぜか」と発問する。 ・技術が進歩したから。 ・生活に余裕ができたから。 ○江戸時代の石高の推移のグラフを提示し、「なぜ石高が増加したのか」と発問する。 ・田の面積が増加したから。 ・農業の技術が進歩したから。 ○耕地面積の推移のグラフと改良された農具を提示する。 ○新田開発や新しい技術の開発によって、生産力が向上し、多くの産業が発達したことを確認させる。 ○産業の発展の背景には社会の安定や貨幣経済の広がりがあることを確認させる。 ○産業の発達に伴って、農村には貨幣経済が広がり、地主と小作人などの格差が拡大したことを確認させる。</p>	
<p>4. まとめ</p>	<p>江戸時代には、安定した社会の中で、新田開発や農業技術の進歩によって、農業の生産性が向上した。その結果余裕が生まれ、また、貨幣経済が広がり、商品作物の生産がさかんになった。漁業・鉱業などの諸産業も技術の発達により発展した。また、都市の発展に伴い、林業も発達した。</p>	<p>【イ】 ■産業の発達と社会の変化を結び付けて考察し、表現している。</p>

小 単 元 3 2 次	1. 既習事項を確認する。 2. 本時の学習の見通しをもつ。	○江戸時代には諸産業が発展したことを確認させ、「各地の特産物はどのように消費されたのだろうか」と質問する。 ・都市へ運ばれて、消費された。 ・幕府や藩に収められた。 ○特産品の流通に着目させて、江戸時代には交通が発達したことを確認させ、課題を提示する。	
	3. 三都の発展について学習する。 4. 交通網の整備とその影響について学習する。 5. まとめ	○予想を立てさせる。 ・モノや人の移動がさかんになった。 ・都市の人口が増えた。 ○江戸・大阪・京都は三都と呼ばれ、それぞれ政治・経済・学問や文化の中心地として発展したことを確認させる。 ○交通網の発達を示した地図から五街道や南海路、西廻り航路、東廻り航路が整備されたことを読み取らせる。 ○大阪の蔵屋敷の資料から交通網の発達によって製品の輸送が活発に行われるようになり、都市を中心に商業がさかんになったことを読み取らせる。 ○人々が移動しやすくなり、都市を中心に発達した文化や生活文化が日本各地へ広がりを見せたことを確認させる。	【イ】 ■産業や交通の発達に着目して、事象を相互に関連付けるなどして、近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。
	めあて：江戸時代の交通網の発達によってどのような影響があったのか理解しよう。		
	江戸時代には、五街道や南海路、西廻り航路、東廻り航路が整備され、交通網の発達によって製品の輸送が活発に行われるようになり、都市を中心に商業がさかんになった。また、都市を中心に発達した文化や生活文化が日本各地へ広がった。		

1. 本時の学習の見通しをもつ。

○元禄文化の代表作などを紹介し、元禄文化は上方の町人が担い手となって発達したことを確認させる。

めあて：なぜ元禄文化は大阪の町人たちの間で花開いたのか説明しよう。

2. 資料を読み取る。

資料A 近世の江戸と大阪の地図
・大阪は江戸と比べて町人地として使われている土地が多く、町人が多く集まっている。

資料B 五代目淀屋辰五郎の取りつぶしに関する資料
・大阪の商人は、全国から集まってきた品物を扱い、淀屋辰五郎のように、巨額の富を得ており、武士を脅かすほどの者がいた。

資料C 大阪の蔵屋敷と交通網の発達を示した地図
・大阪には、諸産業や交通網が発達したため、諸藩の蔵屋敷が置かれるなどし、多くの年貢米や特産物が集まっていた。

3. グループで交流する。
【資質・能力】

⑤ 主体性・協調性

○グループで交流させ、なぜ元禄文化は大阪の町人たちの間で花開いたのか考えさせる。

・諸産業や交通網が発達した結果、大阪は特産品が集まり、商業が発達した。町人達は、それらの特産品を取り扱うことで、富を得て文化の担い手となった。

4. まとめ

○諸産業や交通網が発達した結果、大阪は特産品が集まり、商業が発達し、町人達は、それらの特産品を取り扱うことで、富を得て文化の担い手となったことを確認させる。

江戸時代になると、諸産業の発達や交通網の発達により、各地の特産品や年貢が大阪に集められ、大阪が商業都市として発展した。その結果、大阪の町人は経済力を増すこととなり、新たな文化の担い手となったから。

【イ】□産業の発達と文化の担い手の変化に着目して、事象を相互に関連付けるなどして、近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。

- | | |
|------------------|--|
| 1. 既習事項を確認する。 | ○元禄文化は、大阪が商業都市として発展し、町人が経済力を身に付けたことから大阪の町人たちの間で花開いたことを確認させる。 |
| 2. 本時の学習の見通しをもつ。 | ○文化の中心は江戸へ移っていったことを確認させる。 |

めあて：なぜ化政文化は江戸の町人たちの間で花開いたのか説明しよう。

- | | |
|--|---|
| 3. 化政文化が江戸の町人たちの間で花開いた理由と代表的な作品について学習する。 | <p>○めあてについて予想を立てさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・江戸の商人たちが経済力を身に付けたから。 <p>○江戸の商人たちが経済力を身に付けた理由を三都の人口の推移のグラフを読み取らせ、考察させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・18世紀初め頃から江戸が三都の中で最も人口が多くなっており、日本最大の消費地として、商業が発展したから。 <p>○江戸では成長した町人を中心とする庶民に親しまれる様々な文化が生み出されたことを確認させる。</p> <p>○商業の発達の背景には、産業の発達や交通網の整備があることを確認させる。</p> <p>○教育の普及によって人々の識字率も上がり、それに伴って文学も生み出されたことを確認させる。</p> |
| 4. まとめ | |

江戸は18世紀初めに、日本最大の消費地となり商工業が発達した。それに伴って町人が経済的に成長し、文化の担い手となっていったから。

○中項目全体を貫く問いとの関係に関連付け、まとめさせる。

【単元のまとめ】 社会が安定し、産業・交通が発展すると、貨幣経済が進展するとともに、都市が発展した。上方や江戸では、江戸時代に特に発展した三都の繁栄を背景にして、経済力をつけた町人が文化の担い手となった。

【イ】■産業の発達と文化の担い手の変化に着目して、事象を相互に関連付けるなどして、近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。

【ア】□産業や交通の発達、教育の普及と文化の広がりなどを基に、町人文化が都市を中心に形成されたことや各地方の生活文化が生まれたことを理解している。

小 単 元 4 1 次	3	1. 既習事項を確認する。	○江戸幕府が近世の社会の仕組みを整え、圧倒的な財力やたくみな大名統制により安定した社会をつくり、産業や都市が繁栄し、新しい文化が花開いたことを確認させる。		
		2. 本時の学習の見通しをもつ。	○江戸時代の年表を提示し、順風満帆に見える江戸幕府だが、多くの政治改革が行われたことを読み取らせる。また、中項目の導入を振り返らせ、江戸幕府はいずれ倒幕勢力によって倒されてしまうことを確認させ、「その理由はなぜか」と発問する。 <ul style="list-style-type: none"> ・江戸幕府の政治がうまくいかなかったから。 ・黒船がやってきたから。 ・財政難になったから。 		
		【単元を貫く課題】 なぜ幕府の政治は行き詰まりを見せたのだろうか。			
		めあて：なぜ幕府の政治は改革が必要となったのか説明しよう。			
		3. 徳川綱吉の政治について学習する。	○朱子学を大切にしたり、幕府の財政難に対応するために、貨幣の質を落としたりするなどの政策を行ったことを確認させる。		
		4. 新井白石による正徳の治について学習する。	○貨幣の質を戻したり、長崎貿易を制限して金・銀の海外流出を防いだりしたことを確認させる。		
		5. 徳川吉宗の享保の改革について学習する。	○幕府の財政難に対応するために年貢を増やそうとして、倭約令や上げ米の制、新田開発などを行い、一時的に成功したことを確認させる。		
		6. 田沼意次の政治について学習する。	○株仲間を奨励したり、長崎貿易を活発にしたりするなど、年貢だけではなく、商工業の発展に注目した経済政策を採り、幕府の財政を立て直そうとしたことを確認させる。		
		7. 松平定信の寛政の改革について学習する。	○商品作物の栽培を制限したり、江戸の農民を故郷に戻したりしたことを確認させる。		
		8. 新しい学問の広がりについて学習する。	○変動する社会の中で仏教や儒教が伝わる以前の考え方を明らかにしようとする国学やヨーロッパの文化を学ぶ蘭学が広まったことを確認させる。		
9. まとめ	経済の発展と貨幣経済の進展に伴って、年貢を中心とした幕府の税制は時代遅れのものとなり、幕府は財政難に陥った。そのため、政治改革が必要となり、改革が行われたが、十分な成果を上げることができなかったため、何度も改革が行われることになった。	【イ】 □社会の変化と幕府の政策の変化に着目して、事象を相互に関連付けて、近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。			

小 単 元 4 2 次	2	1. 既習事項を確認する。 2. 本時の学習の見通しをもつ。	○江戸幕府が行き詰まった理由として、黒船の来航を予想として挙げていたことを確認させる。 ○幕府は財政難から政治改革を行っていたことを確認させる。	
	3. 外国船の出現について学習する。 4. アヘン戦争の影響について学習する。 5. 大塩の乱について学習する。 6. 水野忠邦の天保の改革について学習する。 7. 雄藩の成長について学習する。 8. まとめ	○19世紀になると、ロシアやイギリス、アメリカなどの船が日本近海に現れるようになったことと、幕府は異国船打払令を出して外国船を撃退しようとしたことを確認させる。 ○アヘン戦争で清がイギリスに敗れると、異国船打払令をやめ、薪水給与令を出したことを確認させる。 ○天保のききんの際、江戸幕府の元役人であった大塩平八郎が反乱を起こし、幕府に衝撃を与えたことを確認させる。 ○享保の改革と寛政の改革を手本として、倭約令や株仲間の解散などの改革を行ったことを確認させる。 ○幕府と同じように、財政改革の必要に迫られた諸藩の中から、改革に成功し、雄藩へと成長した藩が現れたことを確認させる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> めあて：社会の変動や欧米諸国の接近は幕府の政策にどのような影響を与えたのだろうか。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 【イ】 ■社会の変化と幕府の政策の変化に着目して、事象を相互に関連付けて、近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 </div>	
		9. 単元のまとめ	○中項目全体を貫く問いとの関係に関連付け、まとめさせる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 【単元のまとめ】貨幣経済が農村に広がる中で経済的な格差が生み出され、それを背景として百姓一揆が起こるなど、社会情勢が不安定になった。また、外国船の接近に対し、幕府は北方の調査や異国船打払令を出したが、軍事力では対抗することができないことは明らかだった。また、社会の変化や天災、開国の影響などで財政が悪化した幕府は改革を行ったが、失敗が多く、権威を失い、行き詰まった。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 【ア】 □社会の変動や欧米諸国の接近、幕府の政治改革、新しい学問・思想などの動きを基に、幕府の政治が次第に行き詰まりをみせたことを理解している。 </div>

中項目のまとめ・振り返り	1	1. 本時の学習の見通しをもつ。	○中項目の学習のまとめと振り返りを行うことを確認させる。	
		【中項目全体を貫く課題】 どのように戦のない社会になっていったのだろう。それによって社会の様子はどのように変化し、どのように幕府の滅亡につながったのだろう。		
		2. まとめ		
		【中項目全体のまとめ】 織田・豊臣政権による統一事業を基礎に、江戸幕府による幕藩体制などの諸政策によって近世社会の基礎が築かれ、安定した戦のない社会になっていった。その結果、貨幣経済が進展し、都市や交通が発展した。都市では経済力を持った町人達が文化の担い手となり、新たな文化が開花した。一方で、貨幣経済の進展が招いた格差の拡大などの課題や、外国船の接近によって、幕府の政治が行き詰まり、幕府を倒そうとする近代へとつながった。		
		3. 振り返り 【資質・能力】 ② 問題解決力	○中項目のはじめに記した自分の中項目全体を貫く課題に対する考えと比較して、新たに加わった点や理解が深まったと考えられる点について、学習を振り返らせる。 ○近世の社会の変化の学習を振り返り、次の時代に大切になると思うキーワードをいくつか挙げさせ、その理由を記入させる。	【イ】 □近世の社会の変化の様子について、政治の展開、産業の発達、社会の様子、文化の特色など他の時代との共通点や相違点に着目し、比較したり関連付けたりするなどして多面的・多角的に考察し、獲得した知識を活用して学習を振り返る中で、時代の特色を文章でまとめている。 【ウ】 □この中項目における自身の学習の経緯について振り返り、学習の方法や留意点について自身の学びを確認、調整しようとしているとともに、推移や変化、影響などに着目して、近世の社会の変化の様子の中から、近代につながる動きを挙げるなど、次の学習へのつながりを見いだそうとしている。

4 本時の展開 (18/25 時間)

(1) 本時の目標

元禄文化が大阪の町人たちの間で花開いた理由について多面的・多角的に考察し、表現する。

(2) 観点別評価規準

【イ】 □産業の発達と文化の担い手の変化に着目して、事象を相互に関連付けるなどして、近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。

十分満足 (A)	おおむね満足 (B)	努力を要する生徒への手だて (C)
諸産業の発達や交通網の発達を背景として、大阪の町人が経済力を身に付けたことにより、元禄文化の担い手となったことを考察し、表現している。	大阪の町人が経済力を身に付けたことにより、元禄文化の担い手となったことを考察し、表現している。	1つのスプレッドシートに全てのグループの意見を記入させることで、同じ資料を考察した他のグループの人の意見を参考にすることができるようにする。
記述例 江戸時代になると、諸産業の発達や交通網の発達により、各地の特産品や年貢が大阪に集められ、大阪が商業都市として発展した。その結果、大阪の町人は経済力を増すこととなり、新たな文化の担い手となったから。	記述例 大阪の町人は経済力を身に付けたことにより、新たな文化の担い手となったから。	

(3) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点 (○) 予想される生徒の反応 (・)	評価規準 (評価方法) 配慮を要する生徒への支援 (◆)
1. 既習事項を確認する。 2. 本時の学習の見通しをもつ。	○小単元を貫く課題を提示し、身分が上の武士ではなく、町人が文化を担っており、その理由は経済力が増したと仮説を立てていたことを確認させる。その仮説を確かめるために産業の発展や交通の発達について学習してきたことを確認させ、本時では小単元を貫く課題の核心に迫っていくことを確認する。 ○元禄文化の代表作である尾形光琳の「燕子花図屏風」、井原西鶴の「好色一代男」などの浮世草子を紹介し、彼らは商人の出身であると考えられていることを確認させる。 ○歌舞伎を楽しむ人々の資料から、仮説の通り、町人が文化の担い手であったことを読み取らせる。 ○「江戸時代の文化の中心はどの都市だと思うか、またそう考えたのはなぜか」と発問する。 ・江戸 江戸時代に最も栄えた都市だと思うから。 ・京都 三都のうち、文化の中心であったから。 ○江戸時代にまず文化の中心となったのは上方(京都・大阪)であり、三都のうち文化の中心である京都だけでなく、大阪も文化の中心であったことを確認させる。	

○この時代の文化は元禄文化ということを確認させ、本時のめあてを提示する。

めあて：なぜ元禄文化は大阪の町人たちの間で花開いたのか説明しよう。

3. 資料の読み取りを行う。
資料A～Cを読み取り、読み取ったことをワークシート（クラゲチャート）に記入する。

○大阪が文化の中心であったということは、大阪が経済的に発展していたはずだということを確認させる。次の資料A～Cから、本当に大阪が経済的に発展していたのか、また、その理由について読み取ればよいことを確認させ、見通しを持たせる。

瀬戸田 シンキングタイム

4. グループで交流する。
スプレッドシートに班の意見を記入する。

【資質・能力】

⑤主体性・協調性

ICTの活用

資料A 近世の江戸と大阪の地図

○大阪と江戸の地図を比較して、大阪にはどのような特徴があるだろう。

・大阪は江戸と比べて町人地として使われている土地が多く、町人が多く集まっている。

資料B 五代目淀屋辰五郎の取りつぶしに関する資料

○大阪の大商人、五代目淀屋辰五郎の取りつぶしについての文章から、当時の大阪の商人達について、どのようなことがわかるだろう。

・大阪の商人は、全国から集まってきた品物を扱い、淀屋辰五郎のように、巨額の富を得ており、武士を脅かすほどの者もいた。

資料C 大阪の蔵屋敷と交通網の発達を示した地図

○大阪の蔵屋敷と交通網の発達を示した地図とを関連付けるとどのようなことがわかるだろう。

・大阪には、諸産業や交通網が発達したため、諸藩の蔵屋敷が置かれるなどし、多くの年貢米や特産物が集まっていた。

○グループで交流させ、なぜ元禄文化は大阪の町人たちの間で花開いたのか考えさせる。

・諸産業や交通網が発達した結果、大阪は特産品や町人（商人）が集まり、商業が発達した。町人達は、それらの特産品を取り扱うことで、富を得て文化の担い手となった。

ヒントカード

安土桃山時代の文化では、大名や豪商たちはなぜ文化の担い手となることができたのか思い出そう。

◆机間指導し、資料の読み取りのヒントを与える。

◆資料のポイントを太字にし、下線を引くことで読み取りやすくする。

◆ワークシートの記入欄に書き出しの文章を記載しておく。

◆1つのスプレッドシートに全てのグループの意見を記入させることで、他のグループの意見を参考にすることができるようにする。

◆ヒントカードから経済力を持つものが文化の担い手となることを想起させる。

【イ】□産業の発達と文化の担い手の変化に着目して、事象を相互に関連付けるなどして、近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。

(ワークシート)

5. 全体で交流し、まとめる。	○生徒を何名か指名し、なぜ元禄文化は大阪の町人たちの間で花開いたのか説明させる。 ○生徒の発表の言葉を生かしながら、まとめを板書する。	
江戸時代になると、諸産業の発達や交通網の発達により、各地の特産品や年貢が大阪に集められ、大阪が商業都市として発展した。その結果、大阪の町人は経済力を増すこととなり、新たな文化の担い手となったから。		
6. 振り返りをする。	○文化の担い手の条件についてわかったことや日常生活に関わる疑問などを振り返りの視点として与える。	
これまで学習した時代の文化のように、身分が上の人達が文化を担うというわけではなく、経済力を身に付けた町人が担い手となっていたことが確認できた。文化の担い手となるには、権力があればいいというわけではなく、経済力も重要だということだと思う。今の時代の日本には身分はないが、特別なお金持ちだけが文化を担っているというわけではないと思う。それだけみんなが経済的に豊かな社会になったということだろうか。		

※□囲みで示した活動が、本時におけるシンキングタイムである。

(4) 板書計画

めあて	なぜ元禄文化は大阪の町人たちの間で花開いたのか説明しよう。
○文化の担い手	武士ではなく町人
○江戸時代の文化の中心	まとめ
仮説	江戸時代になると、諸産業の発達や交通網の発達により、各地の特産品や年貢が大阪に集められ、大阪が商業都市として発展した。その結果、大阪の町人は経済力を増すこととなり、新たな文化の担い手となったから。
・江戸	
・京都	三都 文化の中心
実際には、上方(京都・大阪)	が中心
大阪も文化の中心	振り返り 文化の担い手の条件 日常生活に関わる疑問など